

問題1 次は、警備業の歴史・意義と重要性についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 昭和39年に開催された東京オリンピック選手村の警備によって、その存在を広く認識された。
- ② 高度成長期における企業の合理化と人手不足の時代を背景として、各分野で急速に発展した。
- ③ 現在では「生活安全産業」として、国民生活に深く定着している。
- ④ 社会構造の複雑化、治安情勢の深刻化等により、国民の自主防犯活動が活発化している。
- ⑤ 地域社会における犯罪抑止機能が安定してきたため、今後は警備業の果たす役割の重要性は減っていくと考えられる。

問題2 次は、警備業務実施の基本原則についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 警備業務対象施設内等において、不審者を発見した場合は、警察官のような職務質問をしなければならない。
- ② 現行犯人を逮捕した場合、犯人の所持品や身元等を調べることは一切許されない。
- ③ 現行犯人を逮捕した場合は、直ちに警察官等へ引き渡さなければならない。
- ④ 交通誘導警備業務は、通行者の協力を得て行う任意のものであり、警察官等が行う交通整理のような強制力はない。
- ⑤ 警備業務を適正に行うためには、法令で保護されている「他人の権利及び自由」、「個人若しくは団体の正当な活動」についての知識を十分理解する必要がある。

問題3 次は、現在、検定が行われている種別を挙げたが、誤りはどれか。

- ① 海上保安警備業務
- ② 施設警備業務
- ③ 核燃料物質等危険物運搬警備業務
- ④ 交通誘導警備業務
- ⑤ 貴重品運搬警備業務

問題4 次は、基本動作についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 基本動作により、警備員の規律が守られ、士気が高揚するほか、突発的な事故の発生に際して、適切かつ機敏な対応ができる平常心や強調心を養うことができる。
- ② 警備員は、日頃から基本動作を繰り返し練習し、習慣として定着させなければならない。
- ③ 休めは、その場で左足を約20センチメートル（両かかとの内側を結ぶ最短距離）横に開き、体重は両足にかけ、手は後ろに回し、右手の甲を左手でつかむ。
- ④ 右向け及び左向けは、回転側の足のかかとと、反対側の足のつま先とを軸として180度右又は左に向きを変え、反対側の足を引き付け、同一線上にそろえる。
- ⑤ 後ろ向けは、右足をおおむねその方向に引き、足先をわずかに左かかとかから離し、両足先を少し上げ、両かかとかで180度右に回り、右かかとかを左かかとかに引き付ける。

問題5 次は、護身用具についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 護身用具を携帯する場合は、都道府県公安委員会に届出をしなければならない。
- ② 上記①の届出は、護身用具を携帯する日の前日までにしなければならない。
- ③ 警備業法第17条においては、都道府県公安委員会が規則を定めてその携帯を禁止又は制限することができる旨を定めている。
- ④ 警備員が携帯する護身用具は、届出さえすれば、どんなものでも携帯することが許される。
- ⑤ 「護身用具」とは、身体を守るための用具である。

問題6 次は、刑法の緊急避難についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 過剰避難に該当した場合は、情状によりその刑を減輕又は免除される。
- ② 「現在の危難」とは、危険が切迫していることをいう。
- ③ 緊急避難は、他に適切な避難の方法があったとしても、その方法をとる必要はない。
- ④ 避難行為から生じた害が、避けようとした害の程度を超えないことが必要である。
- ⑤ 緊急避難の要件に当てはまる場合でも、業務の性質上、危難に立ち向かうべき義務のある者は、一般人と同じように緊急避難行為をすることは許されない。

問題7 次は、刑事訴訟法についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 警備員は、他の業務に比べて犯罪に接する機会も多いので、現行犯逮捕等に関する刑事訴訟法の規定を十分に理解し、不当に他人の権利を侵害することのないように配慮することが大切である。
- ② 単なる「不審者」は、何らかの罪を犯している疑いがあるだけでは不十分であり、現行犯人とはいえない。
- ③ 逮捕者が被逮捕者の身体に寄り添って看視し、何時でもその身体を捕捉できる態勢をとり、その逃走を防止する方法等によって自由を拘束する場合も逮捕したことになる。
- ④ 現行犯逮捕に際しては、当然実力行使が許されており、相手は犯罪者であるため、実力行使に限界はない。
- ⑤ 現行犯人を逮捕した場合は、直ちに警察官等に引き渡さなければならない。

問題8 次は、道路交通法の目的を挙げたが、誤りはどれか。

- ① 貨物自動車運送事業の健全な発達を図り、もって公共の福祉の増進に資すること。
- ② 交通の安全を図ること。
- ③ 交通の円滑を図ること。
- ④ 道路の交通に起因する障害の防止に資すること。
- ⑤ 道路における危険を防止すること。

問題9 次は、道路交通法第25条の道路外に出る場合の方法についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 車両が道路外に出るため左折するときは、道路の左側に寄る義務と徐行義務が定められている。
- ② 車両が道路外に出るため右折するときは、道路の中央に寄る義務と徐行義務を定めている（一方通行の道路を除く。）。
- ③ 徐行義務は、左折であれば道路の側端に寄る場合についてのみ課せられたものではなく、左折を完了して道路外に出るまで継続することが課せられたものである。
- ④ 一方通行の道路で車両が道路外に出るため右折するときは、道路の右側に寄る義務も徐行義務も定められていない。
- ⑤ 徐行義務は、右折であれば右折を完了して道路外に出るまで継続することを課したものである。

問題10 次は、交通誘導警備業務用資機材についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 交通誘導警備業務用資機材は、保安用資機材と警備員が使用するその他の資機材等がある。
- ② 著しく危険が伴う場所での交通誘導警備業務用資機材の機能、使用方法及び管理方法を熟知するとともに、現場の安全と受傷事故防止に努めなければならない。
- ③ 保安用資機材には、保安柵、セフティコーン、コーンバー、矢印板等がある。
- ④ 警備員が使用するその他の資機材には、クッションドラム、各種標示板等がある。
- ⑤ 主に高速自動車国道等において使用される資機材として、誘導ロボット、発電機、車線規制用標識車両、大型セフティコーン等がある。

問題11 次は、道路使用許可及び保安用資機材の設置についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 警備員自らが設置する場合は、保安用資機材の機能を理解するとともに、受傷事故の防止に努めなければならない。
- ② 道路使用許可条件の中には、保安要員及び保安用資機材の配置等について記載されており、示された条件以外の設置を行うと道路使用許可条件違反となる。
- ③ 一般道路において工事等を行う場合は、その道路を管轄する道路管理者に道路使用許可証を受けることが必要である。
- ④ 一般道路や高速自動車国道等の各現場において、保安用資機材の準備や設置、撤去に関する業務を警備業者が一括して受託していることもある。
- ⑤ 警備員が交通誘導警備業務を行う際は、必ず事前に道路使用許可条件を確認する必要がある。

問題12 次は、合図実施上の基本的留意事項についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 交通誘導警備業務は、相手の自発的な協力に基づいて行われるものであり、特別に権限を有する者のような指示や命令をすることがないようにする。
- ② 基本の姿勢及び合図の方法を習得し、節度を守り、相手に分かりやすい動作で行う。
- ③ 常に周囲の交通状況を把握し、工事関係車両等特定の車両のみを優先した誘導を行うようにする。
- ④ 夜間は、過労運転、飲酒運転、速度違反等による重大事故の発生が多いことに留意し、常に安全確保に努める。
- ⑤ 手旗が絡まった場合は、手旗を上げたまま絡みを直すと、相手に対する合図の内容が不明瞭となるため、手旗を下げて直す。

問題 1 3 次は、手旗による後進の合図の方法についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 後進誘導を行う位置は、原則として、車両の側面から2メートル以上、車両後部から5～10メートル離れた位置で、サイドミラー等で運転者から見える位置で行う。
- ② 体を車両の進行方向に正対させる。
- ③ 進行方向の安全を確認した後、赤旗を自分の前方に伸ばして、後続してくる車両等に停止（又は注意）の合図を継続する。
- ④ 進行方向の安全を確認しつつ、白旗を進行の合図の要領で左右に大きく下を通過して振りながら、車両と距離を保ち誘導する。
- ⑤ 腕の動作に合わせて、警笛を短音と長音で連続して吹鳴する。

問題 1 4 次は、合図実施のための位置の選定についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 原則として、道路工事のために設けられた保安柵の外側又は道路の左側（歩道が設けられている道路にあっては車道上）で行う。
- ② 歩行者や車両から警備員自身の存在が容易に確認でき、警備員からも周辺の交通状況を見渡すことができる位置で行う。
- ③ 警備員の存在が交通の妨害とならず機敏に動くことができ、通行する車両による危険を避けることができる位置で行う。
- ④ 現場は足元が不安定な場所が多いため、転倒等によって受傷することのないように安全な位置で行う。
- ⑤ パワーショベル等は、急に旋回等をするので、特にその動きに注意する。

問題 1 5 次は、警察に110番通報すべき事案を挙げたが、誤りはどれか。

- ① 交通事故が発生したとき。
- ② 火災が発生したとき。
- ③ 刃物などの凶器を持っている人を目撃したとき。
- ④ 暴力や暴言で他人に迷惑をかけている人を目撃したとき。
- ⑤ 街路灯に投石したり、器物を損壊したりしている人を目撃したとき。

問題16 次は、救急蘇生法の意義と重要性についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 警備業務は、その業務の性格上、一般の人に比べて事故等による負傷者に遭遇することも少なくない。
- ② 警備員は、負傷者に対し適切な措置をとることが社会的に期待されている。
- ③ 日頃から救急蘇生法について正しい知識と技能の向上に努め、不測の事態に備える必要がある。
- ④ 一次救命処置は、AEDや感染防護具などの器具を用いて行うが、特別な資格がなくても誰でも行うことができる。
- ⑤ 心肺蘇生やAEDの使用を行っても生存率や社会復帰率に影響を及ぼすことはない。

問題17 次は、護身術についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 相手を積極的に制圧し、撃退することばかりが護身術ではない。
- ② 「護身術」とは、身を護ることである。
- ③ 警備員自身だけでなく、周囲の人たちに危険が差し迫ったときも護身術が行えるよう心がける。
- ④ 危険な状況からいち早く遠ざかり、身の安全を確保するだけでは、護身術とはいえない。
- ⑤ 具体的な技術力（体さばき、離脱技）を行使するのは、最終的な手段である。

問題18 次は、護身術の防御技についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 離脱技には、ひじ寄せ、片手外回し、片手内回し、突き離しがある。
- ② 防御技は、的確に応じられるように反復訓練を行い、体得する必要がある。
- ③ 防御技は、相手からの攻撃を防ぎ、受傷事故を防ぐためのものである。
- ④ 体さばきには、正面の構え、右（左）の構えがある。
- ⑤ 離脱技には、相手に手首をつかまれたり、前えり付近をつかまれそうになったりしたときに離脱する方法がある。

問題 19 次は、消火器の構造、機能及び使用方法についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 「消火設備」とは、火災を発見した人が初期消火のために使用する消火器や自動的に水や泡などが放出されるような設備である。
- ② 消火器の種類には、粉末消火器、強化液消火器などがある。
- ③ 消火器の構造としては、本体容器の外側又は内側に加圧用ガス容器を取り付けた蓄圧式消火器と、消火器本体に消火剤とともに蓄圧した窒素ガスなどを封入した加圧式消火器がある。
- ④ 消火器の使用方法は、(1) 安全栓を抜く (2) ノズルを持ち、火元に向ける (3) レバーを握るの順で行う。
- ⑤ 消火器には、適応火災が定められており、消火器本体に表示されている。

問題 20 次は、現場保存の意義及び実施上の留意点についての記述であるが、誤りはどれか。

- ① 警備員が、犯罪や事故の現場を発見した場合には、速やかに110番通報するとともに、その現場をあるがままの状態に保存して、現場に到着した警察官に引き継ぐことが求められる。
- ② 関係者を除き、保存範囲への立ち入りは控えてもらう。
- ③ 現場保存に当たっては、二次的な事故の発生にも注意することが大切である。
- ④ 「警備員の行う現場保存」とは、犯罪や事故の現場をそのままの状態に保存することにより、警察官の採証活動に協力する活動のことをいう。
- ⑤ 現場保存の範囲は、犯罪又は事故が発生した地点だけではなく、犯罪又は事故の態様に応じて、関係者の行動範囲と考えられる場所のすべてが対象となる。

